

女性だけのうどん店を開いた

黒川 真弓さん 47 (高松市)

# 固定観念打ち破りたい



「たい」という女性を集めた。3時間生地を踏み続けたり、麺棒を操り続けたりする研修

で、手首や足首が腫れ上がる女性もいたが、みんな真剣に打ち込み、手応えを感じた。開店から3か月。店先で女性の手際よくめん棒を操り、店内には「何にしましょ」「行ってらっしゃい」と明るい声が響く。客から「頑張ってる」と声がかかるようになってきた。「楽しみながら夢へ向かう女性を応援したい。そして、本場で女性のうどん職人を増やしたい」。大きな挑戦は、始まったばかりだ。

県内に数ある讃岐うどん店の中でも珍しい、女性だけで運営する店「たも屋女道場」を8月、高松市南新町に開いた。「麺を打つのは男性で、女性はダシ作りなど、内助の功」に徹するという固定観念を打ち破りたかったと話す。14年前に夫と屋台から始め、麺打ちもダシ作りも皿洗いもすべて2人でこなした。女性が麺を打つ姿は珍しかられ、「かっこいいな」という

客の声がうれしく、励みになった。その頃知ったのが、西讃地方に多い太くて固い「男麺」と、東讃地方でよくみられる細くしなやかな「女麺」という言葉。「いつか女麺を使う店を女性で出したい」。その思いを胸に秘めてきた。仕事が軌道に乗り、店が大きくなるにつれて男性職人が増え、麺を打つ機会が減ったが、思いは消せず、2年前に決心。自ら「うどん店をやり

